

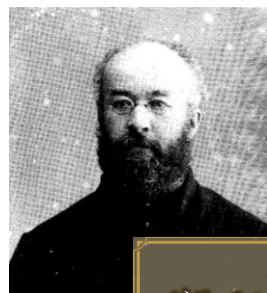
羽黒山は6世紀に開山し“山伏修験”の道が拓き、おりしも7世紀にはフランスデリブランドでは、鶴岡カトリック教会の“黒マリア像”のルーツが羊により掘り起こされた。時代は移り、羽黒山天台宗と湯殿山真言宗の対立により、空海の入定伝説を宗教的信念とした湯殿山一世行人が“即身仏”の道歩んだ。庄内の歴史に3つの祈りの道が紐づく。

黒聖母マリア像のある街

～日本国内唯一の黒いマリア像 祈りの歴史～
 明治維新の街を切り開いた 洋風建築群とカトリック教会の歴史



全国でも数少ない
木造教会



初代
ダリベル神父



畳敷きの礼拝堂

武家門をもつ教会



庄内にもキリスト教の宣教活動が本格化され始めた明治の初め、ダリベル神父は“羽黒三山に向かう巡礼者”をみて、鶴岡にカトリック教会建設を決意した。

黒いマリアは鶴岡カトリック教会の建設にあわせ、フランス・デリブランド修道院から贈られた、戴冠式の行列に利用された由緒あるものでした。

その想いが海を渡り、国内唯一の「黒聖母マリア像」として“祈りの道”が始まった。

洋風建築群が残る城下町

「明治維新（1868）」と時を並べて「キリスト禁教令」が廃止（1873）となった。戊辰戦争で敗戦した庄内藩は山形県令三島通庸（1874～1882）によって、鶴ヶ岡城が解体（1876）され庄内神社となり（1877）、城下の街並みが洋風建築の官庁街と様変わりし、その中心に鶴岡カトリック教会天主堂（1903）の赤い鐘楼がそびえ立った。

鶴岡市街地にその洋風建築群が150年以上も守り続けられているのは、藩主酒井家（致道博物館）があったからこそである。

黒いマリア像

Only one in Japan



戴冠式の行列の黒マリア(1905)



シャルトルの地下の聖母

『黒い聖母』 1903 (M36).10 国内で1体

鶴岡カトリック教会堂献堂記念として、フランス・ノルマンディ州デリブランド修道院(初代司祭ダリベル神父の出身地)から寄贈。最初に送られた石膏像は船便で激しく破損、このためデリブランド教会の1885年の戴冠式行列(プロセション)用に使われた木彫彩色像(カバ材の寄せ木造り)を拝受した。

黒い聖母の由来(デリブランド『聖母の聖地』への巡礼)

黒いマリア像は世界に100体以上あるとされているが、鶴岡の黒マリア像のルーツとなるデリブランド大聖堂の黒い聖母は、9世紀ノルマン人の侵略を地中で避け、奇跡的に羊により掘り起こされ、12～13世紀にはデリブランドは『聖母の聖地』として巡礼を集めている。

旧約聖書
「ソロモン雅歌」
15～6

『イスラエルの娘たちよ 私はケダルダの天幕のように
サルマハの幕屋のように 黒いけど美しい
私の焦げた色に目をとめるな 私は陽にやけた』

木造カトリック教会

国重要文化財

バジリカ型三廊式
ロマネスク建築物

完成:1903.10.11

国内に残存する7番目に古い木造教会。国指定重要文化財(1979(S54.5)指定)(東北唯一)(全国16か所)バジリカとはローマ時代の王宮の謁見(貴人との接見)の広場を意味し、長方形の身廊(礼拝)に一段高い多角形の後陣(祭壇)の音響がよいためミサに使われる教会建築の原型といえる。



天主堂窓絵

Only one in Japan

鶴岡カトリック教会の窓絵は、通称「貼り絵」で、1枚の薄い透明な紙に聖画を描き両側を2枚のガラスで挟んだステンドグラスの代用品である。国内ではここでしか見れない。

畳敷きの礼拝堂

Uncommon in Japan

礼拝堂の前方は畳敷き36畳。通路を挟んで両側が18畳ずつとなっている。信者は畳にひざまずきキリスト様を礼拝した。現存する畳敷き礼拝堂は九州長崎方面にいくつかのこざれているが東北地方には珍しい。現在の畳は表替えを繰り返しているが当時の物と言われている。



鶴岡カトリック教会

武家門のある教会

Only two places in Japan

教会は酒井藩家老の末松十蔵(1,000石)の屋敷跡地にあり武家門が残る。国内では大分県杵築カトリック教会にもあるが他の例は見ない。江戸と明治の時代が融合する景色となっている。



大分県杵築カトリック教会

鶴岡のクリシタンをたどる



クリシタン灯籠

本町三丁目の金子氏宅に保存される織部灯籠の竿石。S22年に蔵の柱の陰に建てられていたものを発見。桃山時代に茶の湯の灯りとして吉田織部江が流行らせたもので竿石に十字や像を刻みキリストの尊像としたもの。キリスト弾圧が激しくなった頃に全国的につくられていた。



マリア観音像

出羽三山神社。千仏堂に展示(明時代)。中国福建省徳化窯の製作。羽黒山の観音信仰に関係し祀られた。求児、育児を祈願し子を抱くためマリア観音と称される。

～明治を切り開いた洋風建築群～



みしま みちつね

山形県令 三島通庸(1835-1888)

薩摩藩出身。1874年(M7)に酒田県令、1876年(M9)に山形県令となり1882年(M15)までの7年間、山形県内の都市整備、道路築造に尽力した。

鶴岡市内では、
 ・西田川郡役所 1881(国重文)
 ・旧鶴岡警察署 1884(国重文)
 ・旧東田川郡役所 1878(国史跡)藤島
 ・三雪橋(名付け:月山、鳥海山、金峰山の三つの山の雪が綺麗であったため)

・県道羽黒線。新時代の到来として本線 築造により城内の「二の丸を割った」とも言われている。
 強行に基盤整備を進めていったことから「土木県令」「鬼県令」とも揶揄された。



棟梁 相馬富太郎 (1835-1888)

1902年(M35.6)にカトリック教会建設に着手。防腐剤もない時代に硫黄を代用したり、曲り尺で墨付けも

出来ない設計のため3週間もかけ上京し、学びながら、苦勞の施工であった。

鶴岡カトリック教会 (1903)(国重文)➤



旧西田川郡役所(1881)

国指定
重要文化財



三島通庸の命で高橋兼吉が建設。1階屋根が入母屋、2階屋根は寄棟、瓦葺、外壁の下見板張りルネッサンス様式の洋風建築。

明治天皇の東北御巡幸の御宿舎にも利用された。

1階は戊辰戦争、西郷隆盛の資料、2階は明治史料が配置。

旧鶴岡警察署(1884)

国指定
重要文化財



三島通庸の命で高橋兼吉が建設。木造入母屋造りで上げ下げ窓や破風飾り妻が特徴の洋風建築。1階は署長室と事務室、中2階に留置室、2階には取調室があった。

2015年の保存改修工事で建設当時の外壁色の青が出現し白から塗り替えられた。

大宝館(1915)

市指定
有形文化財



大正天皇即位の記念として建造。赤いドームと白壁が特徴の洋風建築物。開館当初は物産陳列場、戦後は市立図書館として利用され、現在は、「人物資料館」として、明治の文豪・高山樗牛や日本のダ・ヴィンチといわれた松森胤保など偉人を讃える資料を展示。

新時代の官庁街

～近代建築と現代建築の融合する街並み～

まちキネ

(2010リノベ・2022改修)



設計:高谷時彦

昭和初期の絹織工場をリノベーションした映画館と社会福祉協議会施設。

荘銀タクト鶴岡

(2017.8)



設計:SANAA

(西沢立衛・妹島和代)
 フライタワーを中心とした小さな屋根群は外周に向い低くなり、周辺の街並みに調和。

ショウナイスイデンテラス

(2018.9)

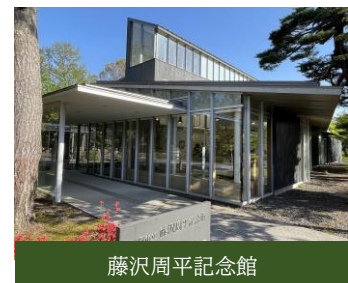


設計:坂茂

水田に浮かぶように建てられた2階建てRC造のホテル。全天候型の児童教育施設「KIDS DOME SORAI」が隣接。

市内循環バスに乗って市街地観光（市街観光バスMAP）

ほか、各施設に関するお問い合わせは直接お願い致します。



藤沢周平記念館




藩校 致道館



旧風間家住宅「丙申堂」

鶴岡市街地観光の見どころ

鶴岡市の中心市街地は鶴ヶ岡城時代の三の丸地内が、明治以降には擬洋風建築物が作られた官庁街としてその一部が残り、さらに平成以降は、コンパクトシティとして新たな公共施設が現代建築として作られました。このように、**城下時代**（致道館）、**明治・大正**（致道博物館、大寶館、丙申堂）、**現代**（荘銀タクト、鶴岡アートフォーラム、藤沢周平記念館）と続く町並みが見どころです。



鶴岡市内循環バス

市街地ABCコース どの回りでも
chericaや**Suica**などの交通系カードで
500円/日 で乗り降り自由!!

市内循環バス↓



ショウコウ チェリカカード
は『S-MALLバスターミナル』
でお買い求めください。



旅行相談  株式会社 庄交コーポレーション

本社営業所
(0235) 24-2550
平日/9:00~17:30 土日・日曜・祝日・年末年始

 **深堀ガイド**

東京第一ホテル鶴岡の宿泊者には「黒いマリア」等の深堀ガイドを紹介します。(有料ガイド、多言語対応可)
(R.6.4月よりサービス開始予定)



東京第一ホテル鶴岡
HPはこちら↓

 **東京第一ホテル鶴岡** ☎0235-24-7611

